

防災教育を軸とした教科横断的な学習（社会科） 神岡中実践報告

1 2年生社会科（地理的分野）東北地方 「過去の継承と未来に向けた社会づくり」 授業実践

導入

本時の中心となる「東日本大震災」についての理解を深めるため、津波の大きさや家屋が全壊している様子など当時の状況が分かる資料を提示した。災害の規模の大きさを実感させることができ、「うわっ」という生徒の反応があった。その後、「石碑とは何か」「碑文にはどのようなことが刻まれているのか」「東北地方に点在する自然災害伝承碑の位置」などを確認し、「東北地方では、過去の災害からの教訓をどのように生かしているのか」と課題を設定した。



【導入の資料】

展開

課題解決に向け、教科書、地図帳、資料集に加え、インターネット資料から読み取りを行った。生徒が読み取った事実を「自助（自分でできること）・共助（みんなで協力すること）・公助（市や国がすること）」の視点で構造的に板書したことで、過去の経験や教訓を生かしていると考えることができた。

「自助・共助・公助」でまとめた後、生徒の認識をさらに深めるために、「木碑」の資料を提示し、「石の方が、手入れが簡単なのに、なぜ、木でつくられた伝承碑を立てているのか」と投げかけた。「木の方が、文字が見やすいのではないか」「設置がしやすいのではないか」という考えが多かった。検証動画を視聴し、「いつまでも忘れないため」「入れ替えるときに思い出させるため」と教訓を未来に受け継ごうとする、人々の思いにも触れながら、考えを深めることができた。



【グループ交流の様子】



【動画を視聴している時の様子】

終末 【生徒のまとめ】

- ・東北地方では、津波の経験から教訓として伝える工夫がされているのだと分かりました。標高の高いところに住んだ方が安全だけど、漁業をしている人や思い出がある人にとっては引っ越すことは簡単ではないんだろうなと思いました。「津波てんでんこ」などの言葉も、伝統になっているんだと思いました。実際にあった被害を忘れないようにしたいし、もしも大きな災害があったときのために、日ごろから防災意識を高めたいと思いました。

2 成果と課題

○震災当時の写真を提示することで、当時の様子を想起させ、課題意識をもたせることができた。

○映像資料を視聴したことで、自分たちの考えをより確かなものにすることができた。

▲教科書や資料集のみでは情報が不足し、生徒にとって読み取りが難しい場面が見受けられた。そのため、インターネット資料を精選して活用することで、生徒の学びがより一層深まると考える。